令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	北海道

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

○　全員で 10 名

学識経験者（大学教授）１人、医療関係者（がん専門医、小児科医、がん専門看護師）３人、道保健福祉部局（がん対策等担当課長）１人、がん経験者１人、校長（中学校、高等学校）２人、養護教諭（高等学校）１人、行政関係者（自治体教育長）１人

２．開催時期、検討内容

第１回連絡協議会	令和４年７月 29 日（金）	集合・オンライン	出席者　８人
・説明　事業概要、学校におけるがん教育の推進、令和４年度がん教育に関する計画 ・協議　「北海道におけるがん教育の推進に向けた改善充実の在り方について」			
第２回連絡協議会	令和４年 10 月 20 日（木）	書面	出席者　10 人
・報告　令和３年度がん教育実施状況調査（文部科学省）の結果について、令和４年度がん教育研修会（北海道教育委員会主催）の開催について ・資料配付　がん教育実践校における事業計画			
第３回連絡協議会	令和５年２月６日（月）	集合・オンライン	出席者　10 人
・説明　がん教育実践校における取組、がん教育研修会、外部講師リストの活用、今後の取組について ・協議　「学校におけるがん教育の推進に向けて、今年度の取組の検証及び次年度の取組に向けた方策について」			

②　教育委員会としての取組

１．実践校における取組の推進

○　実践校として中学校５校、高等学校５校、計 10 校を指定

中学校	三笠市立三笠中学校、余市町立旭中学校、中富良野町立中富良野中学校、遠別町立遠別中学校、稚内市立宗谷中学校
高等学校	北海道富川高等学校、北海道江差高等学校、北海道興部高等学校、 北海道釧路商業高等学校、北海道中標津高等学校

○　保健体育科（保健分野・科目「保健」）におけるがん教育の充実を図るため、３回の授業検討会議を実施

〈出席者〉　実践校のがん教育担当者及び実践校を所管する教育局の担当指導主事

〈ねらい〉　学校におけるがん教育の取組について理解を深めるとともに、実践校の取組を共有し、内容について協議することにより、各実践校におけるがん教育の取組の充実を図る。

第１回授業検討会議	令和４年９月 20 日（火）	オンライン	出席者　18 人
〈内　容〉　・説明「学校におけるがん教育の推進」（北海道教育委員会） ・講義「学習指導要領を踏まえたがん教育の進め方」（新潟医療福祉大学　杉崎弘周教授） ・校種別交流「がん教育の取組」			

第２回授業検討会議	令和４年 11 月７日（月）	オンライン	出席者　19 人
〈内　容〉　・校種別授業検討 ・助言（北海道教育委員会体育担当指導主事・新潟医療福祉大学　杉崎弘周教授）			
第３回授業検討会議	令和５年１月 30 日（月）	オンライン	出席者　12 人
〈内　容〉　・全体交流「保健体育科「保健分野」又は科目「保健」においてがんを取り扱う本時案について」 ・校種別協議「自校でがん教育を進める上での成果と課題」 ・助言・講評（新潟医療福祉大学　杉崎教授）			

○　外部講師の派遣等各実践校の取組

(2) に詳細を記載

２．がん教育研修会の開催

○　外部講師対象研修会及び教職員対象研修会を同日に開催

がん教育研修会	令和４年 11 月 16 日（水）	集合・オンライン	参加者　70 人
〈参加者〉　外部講師　11 人、教職員 59 人 〈内　容〉　・対象別講義 外部講師対象「外部講師に期待すること」（北海道教育委員会） 教職員対象「学習指導要領に対応したがん教育の進め方」（北海道教育委員会） ・以下、合同で実施 講演「学校におけるがん教育の基本的な考え方」（日本女子体育大学　助友裕子教授） 説明「北海道におけるがんの現状」（北海道保健福祉部がん対策等担当課） 説明「北海道のがん教育」（北海道教育委員会） 実践発表（中学校Ｒ３推進校・高等学校 R3 推進校・北海道がん患者連絡会） 交流・質疑応答・発表			

３．外部講師の活用体制の整備

○　外部講師リストの掲載団体・施設等の拡充

・北海道がん診療連携協議会、北海道がん患者連絡会、北海道対がん協会、北海道医師会の協力のもと、外部講師を拡充

○　外部講師活用の促進に向けた取組

・実施の手順や留意事項、実践事例を記載した「外部講師と連携したがん教育」を作成・周知

・「がん教育研修会」（北海道教育委員会主催）において、外部講師を活用した中学校及び高等学校の実践及び「講師派遣養成研修会」（北海道がん患者連絡会主催）について発表する機会を設定し、周知

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

○　北海道対がん協会との連携

・「がん予防道民大会」への地域高校生の参加に係る協力及び、事後オンデマンド配信の周知

○　北海道がん診療連携協議会、北海道がん患者連絡会、北海道対がん協会、北海道医師会の協力

・外部講師リストの作成への協力

○　北海道医師会、北海道がん診療連携協議会、北海道看護協会、北海道がん患者連絡会、北海道中学校長会、北海道高等学校長協会、北海道養護教員会、北海道町村教育委員会連合会の協力

・連絡協議会への参加

（２）モデル校（がん教育実践校）における取組（●外部講師との連携、◇他教科等との連携）

【三笠市立三笠中学校】

・保健体育科（第２学年）　単元名「がんとその予防」

●講話「がんの基本的な知識とがん患者への理解と共生」　講師：砂川市立病院がん相談支援センター・看護師

（教科等：特別活動、対象：全学年・教職員・その他（市保健体育部会及び養護教諭部会所属教諭等、市教育委員会等））

← ロールプレイングを取り入れた保健体育科の授業。

→ 外部講師は、保健体育科の授業を参観し、講話の内容につなげる。

【余市町立旭中学校】

・保健体育科（第２学年）　単元名「生活習慣病などの予防」

●講話「余市町のがんの実態と健康推進」　講師：余市町役場子育て健康推進課・保健師

（教科等：保健体育科　対象：第２・３学年）

【中富良野町立中富良野中学校】

・保健体育科（第２学年）　単元名「生活習慣病などの予防」

◇小学校との連携（中学生が「健康」をテーマに調べ学習を実施し、その成果を小学生にプレゼンテーション。保健体育科教諭が生活習慣とがんについて講話）

【遠別町立遠別中学校】

・保健体育科（第３学年）　単元名「健康な生活と病気の予防」

【稚内市立宗谷中学校】

・保健体育科（第２学年）　単元名「生活習慣病などの予防」

●講話　講師：稚内市・保健師　（教科等：保健体育科　対象：第２学年）

【北海道富川高等学校】

・保健体育科（第１学年）　単元名「現代社会と健康」

●講話「がんになって感じたこと・がんとの共生」　講師：北海道がんセンター・がんピアサポーター

（教科等：保健体育科　対象：全学年）

【北海道江差高等学校】

・保健体育科（第１学年）　単元名「現代社会と健康」

●講話「病（やまい）」　講師：北海道大学病院先端医療技術教育研究開発センター・医師

（教科等：総合的な探究の時間　対象：第１学年）

◇保健だより「シリーズ～がんとともに生きる」の活用（SHR において、学級担任が説明）

【北海道興部高等学校】

・保健体育科（第１学年）　単元名「生活習慣病などの予防と回復」

●講話「がんを学ぼう・考えよう（正しい知識とがん予防）、がんと生きること・がんで死ぬこと」

講師：興部町役場・保健師　（教科等：特別活動　対象：全学年）

◇家庭科との連携「がん予防を意識した食事の献立を考える」

【北海道釧路商業高等学校】

・保健体育科（第１学年）　単元名「生活習慣病などの治療と回復」

●講話「がんとともに生きるために」　講師：釧路労災病院・看護師　（教科等：保健体育科　対象：第１学年・教職員）

← グループワーク「がんへの不安・疑問」

→ 講話中も、周囲の生徒同士、意見交換

【北海道中標津高等学校】

・保健体育科（第１学年）　単元名「生活習慣病などの予防と回復」

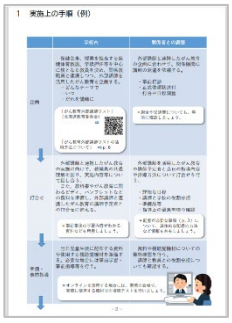
●講話「がんを経験した私から、お伝えしたいこと」　講師：北海道がん患者連絡会・がん経験者

（教科等：保健体育科　対象：第１学年・教職員・他校教職員）

２．事業の達成度について

（１）教職員の理解の促進について

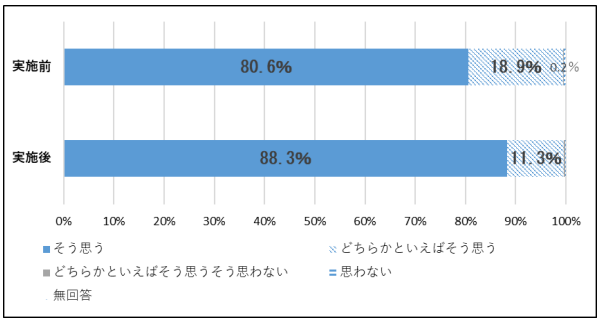
外部講師を活用したがん教育の意義について教職員の理解を促す必要があったことから、実施の手順や留意事項、実践事例を記載した「外部講師と連携したがん教育」を作成し、周知したほか、北海道教育委員会主催「がん教育研修会」において、前年度推進校が外部講師と連携したがん教育について実践を発表するとともに、北海道がん患者連絡会が「講師派遣養成研修会」に係る実践を発表。「がん教育研修会」アンケートでは、実践発表について 89.3%が「大変役立った」「おおむね役立った」と回答。



↑　令和４年６月（北海道教育委員会）

（２）保健体育科における授業改善について

実践校の授業担当者等を対象に、３回の授業実践検討会議を開催。がんを取り扱う単元についての指導計画及び本時案の作成に取り組み、担当者同士で授業検討を実施。指導計画及び本時案は、実践例として、WEB で公開し、周知。



↑　「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」と回答した生徒が授業（講話）後、7.7 ポイント上昇

（３）外部講師との連携について

学校が広域に分散している北海道は、外部講師の拡充及び、オンラインを活用した取組等、地域の特性に合わせた実践例の普及が必要であることから、学校の実践例のほか、医療機関等外部講師側の実践例を収集し、周知。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○　中学校及び高等学校においては、保健体育科を中心にがん教育の充実を図るとともに、学校保健計画に位置付け、計画的、組織的に推進する必要があることから、引き続き、保健体育科の実践例及び他教科と関連を図った実践例の普及に務める。

○　外部講師と連携したがん教育を推進するために、引き続き、教職員の理解の促進に努めるとともに、オンラインを活用するなど北海道の地域性を考慮した実践例の普及及び継続可能な派遣体制のシステムづくりが必要であることから、関係団体等の協力のもと、体制を整備し、実践例を周知する必要がある。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○　WEB ページを活用し、実践校の事例の普及に努めるほか、各種研修会や会議等において「学習指導要領に対応したがん教育」や「外部講師と連携したがん教育」について、積極的に情報を発信し、普及に努める。

○　外部講師と連携したがん教育を推進するため、関係機関等の協力を得ながら、継続可能な派遣体制の整備に努める。

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	青森県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

ア．構成員

【検討委員会】全部で９人

（医療関係者）医師（内科・がん検診管理指導監）各１人（計２人）、大学教授（腫瘍内科）１人、
大学教授（看護学）１人、県の保健担当部局員（がん・生活習慣病対策課）１人

（学校関係者）小学校・中学校・高等学校長各１人（計３人）

（事務局）　県学校保健担当部局員（スポーツ健康課）１人

【ワーキンググループ】全部で１２人

（医療関係者）大学教授（看護学）１人

（学識経験者）大学名誉教授１人、がん患者家族１人

（学校関係者）小学校・中学校・高等学校養護教諭（計６名）、教育事務所学校保健担当指導主事３人

【他組織との連携】

青森県健康福祉部がん生活習慣病対策課、がん診療連携拠点病院（青森県立中央病院、弘前大学医学部附属病院、八戸市立市民病院）、地域がん診療病院（十和田市立中央病院、むつ総合病院）

イ．開催時期、検討内容

実施時期	検討事項	出席者
令和４年１２月１３日	第１回ワーキンググループ ○事業内容説明 ○各校のがん教育の取組について情報交換 ○体育・保健体育科と特別活動等との関連付けについて協議	１０人
令和５年１月３１日	第２回ワーキンググループ ○事業内容説明 ○学校におけるがん教育指導計画例について協議	１０人
令和５年２月１４日	検討委員会 ○学校におけるがん教育指導計画例について協議 ○今後のがん教育推進のロードマップについて検討 ○県のがん教育の今後の取組について協議	５人

②　教育委員会としての取組

・ワーキンググループにおいて、学校全体でがん教育を効果的に進めるために、体育・保健体育科の授業以外でどのように取り組めるかを協議した。

・学校でのがん教育の推進を図るため、県内の小学校教員に対して研修会を実施。聖心女子大学現代教養学部教授　植田誠治氏による「学校におけるがん教育の考え方・進め方」の講義をオンラインで実施した。

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・青森県がん教育検討委員会ワーキンググループにて、モデル校におけるがん教育の実践内容について情報交換を行った。

・がん診療連携拠点病院等にモデル校の講師を依頼した。

・令和２年度作成、配布したがん教育指導用補助資料データの更新について県保健担当部局に依頼した。

（２）教職員向けがん教育に関する研修会

講義　「学校におけるがん教育の考え方・進め方」

講師　聖心女子大学現代教養学部　教授　植田　誠治　氏

実施時期	対象教員
令和５年１月１８日（水）	小学校の教職員、市町村教育委員会の健康教育担当指導主事等の職員

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、オンライン研修とした。

（３）その他（県費事業）

・県内の健康教育実践研究校のうち８校（小学校３校、中学校３校、高等学校２校）をモデル校とし、７校で外部講師を招いてがん教育を実践した。

階上町立石鉢小学校 １２月２日（金） １４：００～１５：００	八戸市民病院 副院長 沖　元二　氏	５・６年生児童 教職員	○「生活習慣病の予防～がんについて知ろう～」 ・がんとはどんな病気か ・日本、青森県の現状 ・生活習慣と病気（がん）とのかかわりと予防
蓬田町立蓬田小学校 １０月１８日（火） １０：４０～１１：３０	弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授 佐藤　温　氏	５・６年生児童 教職員	○「がんといのちのはなし」 ・がんという病気、がんの原因 ・がんの予防と治療について ・いのちについて
藤崎町立明徳中学校 ７月５日（火） １３：３５～１４：２５	弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授 佐藤　温　氏	３年生生徒 教職員 保護者	○「がんについて知ろう～いのちのはなし～」 ・がんのイメージ ・青森県のがん死亡率 ・原因と予防、治療と緩和ケア ・がん患者の思い
東北町立東北中学校 １１月１日（火） １３：３０～１４：２０	青森県立保健大学看護学科 教授 鳴井　ひろみ　氏	２年生生徒 教職員	○「がんへの理解と共生社会を目指して」 ・がん患者への偏見や、がん患者の心身の苦しみ、悩み等 ・支え合い共生していく社会
むつ市立大畑中学校 １２月３日（土） １３：３５～１４：２５	むつ総合病院 産科部長・医師 武田　愛紗　氏	全校生徒 教職員 保護者	○「がんの予防について」 ・がんという病気、がんの状況 ・がんと生活習慣との関連 ・早期発見・早期治療 ・子宮頸がんワクチン接種の重要性
青森県立三沢高等学校 １１月３０日（水） １４：００～１５：００	青森県立保健大学看護学科 教授 鳴井　ひろみ　氏	１年生 ３年生（医療系等志望の希望者）	○「がんの人もがんでない人も支え合える社会とは」 ・がん治療で大切なこと ・がん患者の思い ・がん患者とともに生きる社会
青森県立弘前高等学校 １０月１８日（火） １０：４０～１１：３０	弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授 佐藤　温　氏	１年生 教職員	○「がんといのちのはなし」 ・がんという病気、がんの原因 ・がんの予防と治療について ・患者さんについて ・いのちについて

２．事業の達成度について

（１）ワーキンググループについて

学校全体でがん教育を効果的に進めるために、体育・保健体育科の授業以外でどのように取り組めるかを協議し、がん教育指導計画例を作成した。次年度よりモデル校において、体育・保健体育科の授業以外の道徳や特別活動等でがん教育を行っている場合、効果について検証することとした。

（２）検討委員会

検討委員会では、がん教育指導計画例について検討した。また、関係部局やがん診療連携拠点病院、学校関係者が意見交換を行うことで、各々の取組内容を共有でき、今後の効果的な指導法や連携の仕方について考えることができた。

（３）がん教育推進のための講演会

＜参加者の感想（一部抜粋）＞

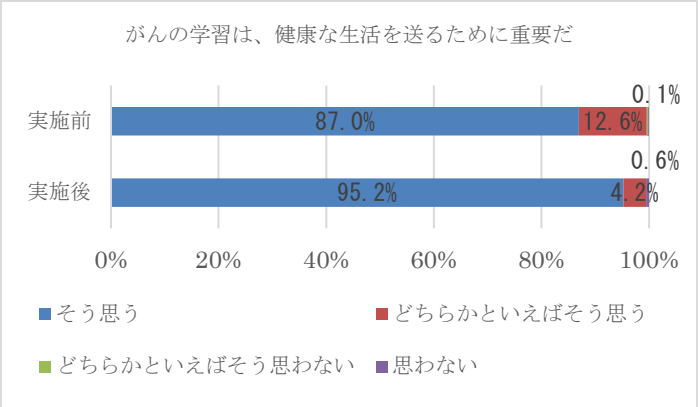
・がん教育についてどうしていいか分からない状態だったが、講演を聞いて、自分でもできるかもしれないと思った。

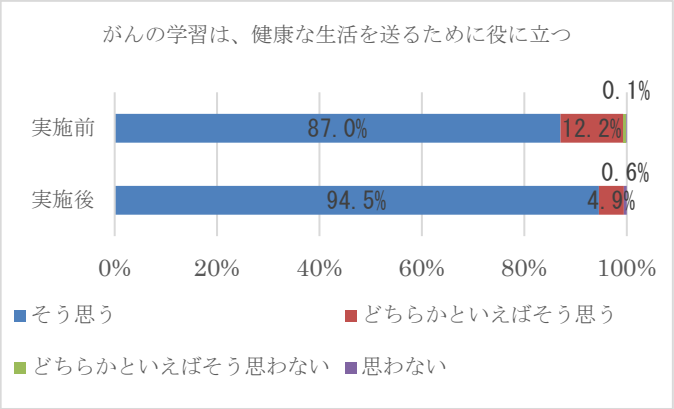
・喫煙に関する意識の変化のように、時間がかかってもがんやその他の疾病についての意識に変化が見られるように実践を重ねていくことができればと思った。

・昨年、「がん教育をやってみない？」と言われたが、がんについて何も知らない、教えられないと思い断った。それが心残りで今回参加したが、なぜがん教育をしなければいけないのかがわかり、子どもたちに何を伝えたいのか、自分の中で少しずつ明確になった。この講義を受けることができて良かった。

（４）その他

モデル校におけるがん教育について、児童生徒に対するアンケート結果から（抜粋）





質問	事前（%） n＝713				事後（%） n＝694			
	そう思う	どちらかといえば		思わない	そう思う	どちらかといえば		思わない
		そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a　自分はがんにならないと思う。	22.3	5.3	31.3	40.	5.0	17.3	28.8	48.7
d　がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う。	64.1	29.6	4.5	1.4	85.4	12.7	1.3	0.4
f　がんになっても生活の質を高めることができる。	31.1	32.0	26.2	10.3	60.0	26.0	10.5	3.3
g　がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	73.2	24.0	1.7	0.8	86.3	12.5	0.8	0.2
H　がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	52.7	35.3	8.3	3.4	75.1	20.9	3.3	0.6

＜児童生徒の感想（一部抜粋）＞

・がんにならないために、運動・食事・たばこを吸わないなどの予防が大切ということがわかりました。その中でも私は「運動を適度にすること」を頑張りたいと思います。今年の８月に祖父が大腸がんになって、私はがんがとても怖いと思いました。だから、生活に注意してがん予防をしていきたいと思います。(小学生)

・私も乳がんや子宮頸がんになってしまうかもしれないので、大人になったら必ず検診を受け、早期発見・早期治療につなげるようしたいと思う。母にも検診を受けてもらい健康に過ごしてほしいと思った。(中学生)

・がんに誰でもなることは知っていましたが、ここまで身近な病気だとは知らなかったのでとても驚きました。がんは生活習慣を見直すことで予防できることを学んだので、他人のたばこの煙を避けたり、食生活を見直したりするなど、自分ができることをしっかりやっていきたいと思いました。(中学生)

・早期発見すると完治する確率が高くなることがわかった。だから、自分は、がんにならないための予防をしっかりし、早期発見のために検査を受ける、勧めることをしようと思いました。「いのち」の大切さはがんになった人が一番よく知っていたので、自分はがんになっていなくても、「いのち」について考えていこうと思いました。がんはただ怖いだけの病気ではなく、それを患うことで「いのち」の大切さに気づかされたと患者さんが言っていたため、「いのち」の大切さにはなかなか気づくことができないとわかった。がんの予防には食生活から気を付ける必要があると思いました。親にがん検診を受けるように促したい。(中学生)

・がんという病気の実態や日常生活におけるリスクなどについて理解を深めることができました。その上で、自分たちが健康に生活するために気を付けるべきことを考えるきっかけになりました。(高校生)

・がんの治療で大切なことは治療法を理解し、自分がどのような生き方をしたいのかなど考え、自分で選ぶことが大切だと知った。もし、まわりでがんになった人がいても、一人の人間としてこれまで通りの接し方をしていこうと思う。がん患者とともに生きる社会を考えていき、実践していきたい。(高校生)

講演会を実施したことにより、「がんの学習は健康な生活を送るために重要だ」「がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ」という質問に「そう思う」と回答した児童生徒の割合が増えた。がんの学習の重要性について認識が深まったと考えられる。また、生活習慣によって予防できるがんもあることを知り、健康的な生活習慣についての意識が高くなったことがわかる。

がんにかかる可能性は誰にでもあることを認識したことや、がんの早期発見・早期治療のためのがん検診の重要性についても学ぶことができた。外部講師による講演会を実施することで、自身の学びはもちろんのこと、がん年齢である家族など身近な人へのがん予防にもつながり、大人世代へのがん教育も期待される。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

・学校において限られた時間で効果的にがん教育に取り組むためには、教科等横断的に様々な教科等と関連付けてがん教育を行うことが重要であり、今後の課題でもある。ワーキンググループ及び検討委員会で協議したがん教育年間指導計画例等を参考に、体育・保健体育科の授業以外で１時間でもがんに関して取り組めるよう、今後も検討を続けたい。

・外部講師の確保と質の担保のため、関係部局と連携し、外部講師との連携体制の構築について検討する。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・モデル校以外でがん教育を推進するため、がん教育の目的等を周知するための研修会を継続して開催する。

・モデル校以外で外部講師を招いた講演会を実施する場合は、予算確保が課題である。学校の課題と市町村の課題が一致したケースでは、市町村等と連携して外部講師を招いた講演会を計画している学校もある。好事例を集め、モデル校以外の学校でも活用できる情報を提供したい。

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	岩手県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

全体で 13 人【内訳：医師２人（県医師会小児科医、がん診療連携拠点病院緩和医療科医）、県衛生主管部局１人、がん経験者１人、PTA１人、校長３人（小学校、中学校、高等学校）、養護教諭１人、県教育委員会４人】

２．開催時期、検討内容

■第１回協議会

（１）開 催 日：令和４年９月 30 日（金）

（２）協議内容

ア　令和３年度岩手県がん教育総合支援事業報告について

イ　令和４年度岩手県がん教育総合支援事業計画について

■第２回協議会

（１）開 催 日：令和５年２月 15 日（水）

（２）協議内容

ア　令和４年度岩手県がん教育総合支援事業報告について

イ　令和５年度岩手県がん教育総合支援事業計画について

■検討内容

（１）今後のがん教育の方向性について

・小学校におけるがん教育の在り方について

・全体指導と併せて実施する個別指導について

（２）外部講師によるがん教育の体制づくりについて

・教育的観点、医学的観点から、より良いがん教育の在り方を継続的に話し合っていく体制作りが必要であること。

・学校歯科医や学校薬剤師との連携について、検討していくこと。

②　教育委員会としての取組

１．主な取組の経過

実施時期	実施事項
5月 26 日	「がん教育講演会」講師派遣事業 希望のあった 10 校について、がん診療連携拠点病院とのマッチングを行い、通知した。参観可とした学校について、県内県立学校に通知した。
7月７日	令和４年度がん教育総合支援事業　がん教育「教材活用研修会」及びがん教育「外部講師活用研修会」の開催について周知 各小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校 県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、がん患者会、協議会委員
9月 27 日	高等学校における外部講師と連携したがん教育の実施 ●参観者：養護教諭、保健主事、指導主事 ●講師と域内の養護教諭・指導主事との意見交流 ➤外部講師と連携したがん教育の在り方検討

10月7日	モデル授業　実施 「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」掲載の高等学校特別活動展開例による授業 【参観者：当該校教諭等３名、学校薬剤師、指導主事２人】
11月24日	令和４年度がん教育研修会・シンポジウムの開催について周知 各小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校 県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、がん患者会、協議会委員
３月	小学生向けがん教育リーフレットの配布 衛生主管部局が配布する小学生向けリーフレットの配布と活用について通知

２．外部講師派遣事業

（１）目的

がん専門医等を派遣することにより、生徒が「がんについて正しく理解すること」及び「健康と命の大切さについて主体的に考えることができること」を目指すとともに、自らの健康を適切に管理する生徒を育成する。

（２）対象

派遣を希望する県立高等学校、特別支援学校高等部

（３）講師

がん診療連携拠点病院の医師等

３．教職員や外部講師の資質向上を目的としたがん教育研修会の実施

（１）期　　日　　令和４年10月28日（金）

（２）内　　容

ア　行政説明及び実践紹介（45分）

保健体育課　主任指導主事　齊藤　智彦

イ　講義「学校におけるがん教育の在り方と進め方」（90分）

筑波大学名誉教授　野津　有司　氏

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・外部講師の派遣について、県保健福祉部、がん診療連携拠点病院、県医師会、対がん協会等と連携して行った。

・県がん対策推進協議会において、がん教育総合支援事業における取組、学校の取組等について共有した。

・県歯科医師会との協議会において、がん教育の推進について情報交換を行った。

（２）モデル校における取組

■高等学校における外部講師と連携したがん教育の実施

＜日　　時＞　　令和４年９月27日（火）　７校時

＜授業実施校＞　　岩手県立釜石高等学校

＜講　　師＞　　岩手県立大船渡病院　副院長　兼地域医療福祉連携室長兼緩和医療科長

村上　雅彦　氏

＜対　　象＞　　第３学年

■がん教育の実施後の講師との意見交流会

＜参　加　者＞　　釜石・気仙地区高等学校（定時制含む）及び特別支援学校所属養護教諭・保健主事

■高等学校の特別活動における授業実践

＜日　　時＞　　令和４年10月７日（金）　６校時

＜授業実施校＞　　岩手県立一関工業高等学校

＜授　業　者＞　　岩手県立一関工業高等学校　教諭　照井　知子　（保健主事、家庭科）

＜対　　象＞　　第１学年

＜授 業 内 容＞　　「がん教育指導者向けマニュアル」掲載の特別活動展開例を用いた授業

ホームルーム活動(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

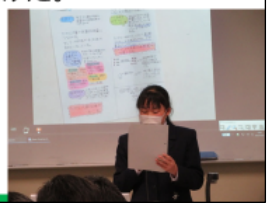
オ　生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立
題材「がん患者への支援を考える～ＱＯＬの維持・向上をめざして～」

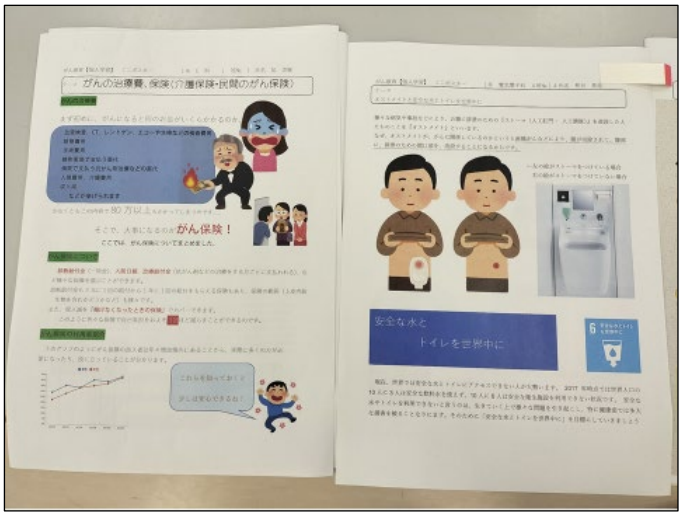
取組内容

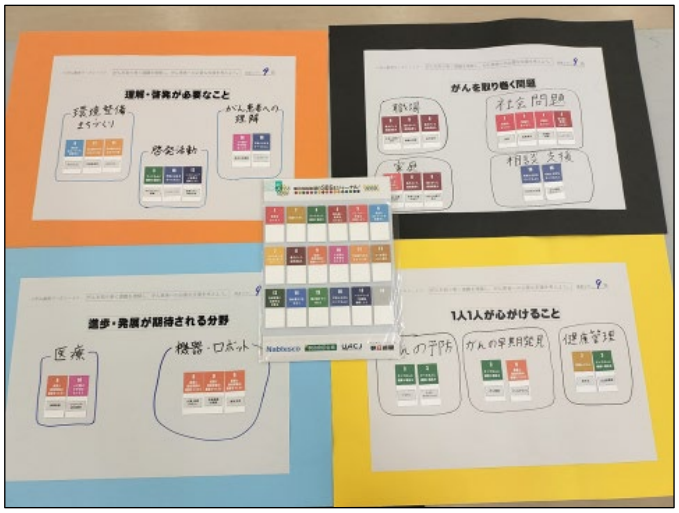
（１）Microsoft　Formsによる事前・事後アンケートの実施。
（２）Microsoft　Teamsによる文部科学省教材の視聴。【朝学習10回】
（３）情報基礎の授業とクロスカリキュラムによる調べ学習とミニポスター作成。
（４）職員が「12年間で３人の家族を在宅看護で看取った体験談」を伝えた。
（５）「緩和ケア医　関本　剛　氏（YouTube MBSニュース、お別れの言葉）」の視聴。

取組内容

（１）各自テーマを決めて、ミニポスターを作成。
（２）テーマ別グループで発表準備。
（３）カテゴライズシートを用いて「がんを取り巻く課題」を整理し可視化した。
※SDGsターゲットの視点とのリンク。
（４）書画カメラを用いた全体発表。
（５）「大切な人へのメッセージ」とともに、文化祭で展示し、啓発活動につなげた。







＜実施後の生徒の感想＞

・改めてがんは身近なものだと思いました。

・早期に発見すれば助かる確率が大幅に上がることが分かったので、自分も他人事だと思わず検査を受けるようにしたいです。

・前までは自分はまだ大丈夫だと思っていたが、がん教育を通して若くてもなるため健康に過ごそうと思った。また、検診はしっかり受けるようにしたいと思った。

・今までは治らない病気だと思っていたけどがん教育の学習を通して治らないこともあるがまずは健康な生活をして予防をできることがわかった。これからは自分もがんにならないために生活習慣を考えて生活したい。

＜実施後の生徒の感想＞

・がんはとても怖いものだと考えていた。なぜなら、一度がんになると完治するのは難しいと思っていたから。しかし、がんは早期に発見して治療すれば治るなどがんに対する正しい知識を身につけたことで過度に怖がらないで済むようになった。この知識を将来にいかしていくだけでなく、親が元気でいてくれるように伝えていきたい。

・がんについてもっと理解を深めたいと思った。家族ががんになった場合にサポートをできるように頑張りたい。

・がんは早めに治療すれば治ることが分かりました。また、周りの人や社会全体で支えていくことが大切だと思いました。がん患者の話を聞いて理解することも大切だと思いました。

・がん患者は様々な悩みや苦労を抱えていて、私たちががん患者に寄り添い合い課題を解決していかなければならないと知った。

２．事業の達成度について

（１）教職員や外部講師の資質向上を目的としたがん教育研修会の実施

■参加者数　108 名

【校種別内訳】小学校教諭 58 名、中学校教諭 28 名、高等学校教諭 15 名、特別支援学校教諭３名
学校歯科医２名、学校薬剤師１名、PTA１名

新型コロナウイルス感染症の流行中にあっても、参集型で開催し、講義と演習をとおして学習指導

要領に対応したがん教育の進め方について周知するとともに、「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」の活用を促進することができた。

【実施後アンケート】
学校所属参加者 104 名中「たいへん有意義であった」72 名、「有意義であった」32 名
（小）がん教育に限らず、すべての子供たちに真剣に考える時間と材料と仲間を保証することが大事であり、それが授業なのだということをあらためて教えられた。
（小）がん教育について小学校から中学校、高等学校へと系統的な学びが大切であるということから、小学校段階でも体育科、特別活動、道徳などでマニュアルを活用しながら中学校へつながる実践的な指導に活かしていきたいです。そのためにも、家庭や地域との連携を図りながら組織的計画的に進めていきたいと思います。
（中）がん教育にもっと力を入れていかなければならないと感じた。２人に１人はかかると言われているがんの知識などは、義務教育段階から知っておくべきだと感じた。
（高）がんについて正しい知識をつけさせることが大切だと思っていたが、「自ら正しい情報をとらえ、考え判断し、実践・行動していく」ことが大切だと知った。

（２）モデル校における授業実践
■「がん教育指導者向けマニュアル」掲載の特別活動展開例を用いた授業を実施し、授業のねらいを達成することができる展開例であることを確認することができた。
■外部講師と連携したがん教育実施後に行った意見交流会において、高等学校および特別支援学校におけるがん教育実施上の課題について共有することができた。

（３）外部講師派遣事業の実施
■実施校
高等学校９校、特別支援学校１校、対象生徒人数合計 1,410 人

【実施校の報告より】
・生活習慣との関係や緩和ケア等に対する知識も深まり、がんという疾患に対する理解だけでなく、自分や自分の家族を大切しようとする意識の向上にも繋げることができた。
・保健の授業後に講演会を位置づけ、教科で学習したがんに関する原因や予防及び治療法等についての基礎知識を深めることができた。
・がんは誰でもかかるという認識を持ち予防や検診やがん患者への理解を深めるとともに、がんを通じて健康や命の大切さを実感することができた。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

・がん教育の進め方については、どの校種とも教職員の研修が必要である。今後も、学校保健推進者対象、保健体育科教諭対象等の各種研修会において取り扱っていくこと。
・「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」の活用を推進すること。
・マニュアル掲載の授業展開例を用いたモデル授業の実施を継続し、実践を共有していくことにより、各校におけるがん教育の充実を図ること。
・外部講師と連携したがん教育について実践を共有しながら、効果的ながん教育を推進すること。
（がんの専門医だけでなく、学校歯科医、学校薬剤師等と連携したがん教育も併せて推進していく。）

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・学習指導要領の内容及びがん教育の進め方について保健体育課教員の研修の充実が必要であること。
・外部講師と連携したがん教育をより効果的なものにしていくため、また、外部講師の拡充のためには、外部講師（医療関係者等）と学校が、授業実施後に効果の検証を行い、その内容を共有していく体制づくりが必要である。

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	山形県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員（全員で１６名）

・管理指導医１名、がん専門医１名、がん教育アドバイザー１名、がん経験者１名、小学校長会１名、中学校長会１名、高等学校長会１名、特別支援学校長会１名、養護教諭連絡協議会１名、県健康福祉部局１名、県教育庁スポーツ保健課長１名、県教育庁スポーツ保健課事務局５名

２．開催時期、検討内容

・第１回（令和４年７月６日）：がん教育の普及・推進に向けた計画の検討

・第２回（令和５年２月３日）：がん教育に関する実践の検証、次年度方針の検討

②　教育委員会としての取組

１．推進校の指定（４校）

長井市立長井南中学校、河北町立河北中学校、山形県立天童高等学校、山形県立北村山高等学校

・推進校への外部講師派遣

★長井市立長井南中学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日　時：令和４年７月１３日　＜対象：２年生１０４名＞

講　師：訪問診療クリニックやまがた　院長　奥山慎一郎　氏

社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院　がん看護専門看護師　齋藤　智子　氏

内　容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

★山形県立天童高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日　時：令和４年１０月１２日　＜対象：１年生１５３名＞

講　師：訪問診療クリニックやまがた　院長　奥山慎一郎　氏

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院　理学療法士　黒田　昌宏　氏

内　容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

★山形県立北村山高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日　時：令和４年１０月２７日　＜対象：１学年２７名＞

講　師：訪問診療クリニックやまがた　院長　奥山慎一郎　氏

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院　理学療法士　黒田　昌宏　氏

内　容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

★河北町立河北中学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがん教育講演会を開催した。

日　時：令和４年１１月１７日　＜対象：２・３年生２６６名＞

講　師：訪問診療クリニックやまがた　院長　奥山慎一郎　氏

社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院　がん看護専門看護師　齋藤　智子　氏

内　容：緩和ケアの観点から「がん」、そして「いのち」を学ぶ講演会

２．がん教育指導者・外部講師研修会の開催

令和４年度がん教育総合支援事業 がん教育指導者・外部講師研修会

日　　時：令和４年１０月１４日　＜参加者：８４名＞

行政説明：「山形県におけるがん教育の推進について」　県教育庁スポーツ保健課担当

講　　師：新潟医療福祉大学　教授　杉崎　弘周　氏
演　　題：『がん教育の研究と実践』
会　　場：山形市総合スポーツセンター 大会議室（Zoom を活用したハイブリッド開催）

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・県健康福祉部局との連携を図り、推進校に「大切な家族へ検診受診を促すメッセージカード」を配布

（２）推進校における取組

【長井市立長井南中学校での取組】

０時間：事前アンケート（生徒の現状を把握する）
１・２時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする）
＊②山形県教育委員会としての取組「１．推進校への外部講師の派遣」を参考
３時間：保健分野（生活習慣やがんを早期発見また回復を早める方法を学び、その大切さを伝える授業の実践）
４時間：事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【河北町立河北中学校での取組】

０時間：事前アンケート（生徒の現状を把握する）
１・２時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする）
＊②山形県教育委員会としての取組「１．推進校への外部講師の派遣」を参考
３・４時間：保健分野（『河北町がん予防日本一を目指す』ためのメッセージを考える授業の実践）
５時間：事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【山形県立天童高等学校での取組】

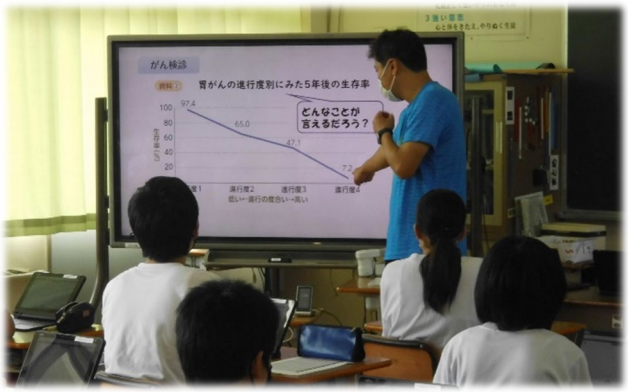
０時間：事前アンケート（生徒の現状を把握する）
１・２時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする）
＊②山形県教育委員会としての取組「１．推進校への外部講師の派遣」を参考
３時間：科目「保健」（グループ活動を通して、「共生社会」の実現に向けた具体的な支援の方法と、今後さらに考えられる取組について提案する授業の実践）
４時間：事後アンケート（生徒の変容を把握する）

【山形県立北村山高等学校での取組】

０時間：事前アンケート（生徒の現状を把握する）
１・２時間：講演会（がんについて関心を高め、健康と命の大切さについて考えられるようにする）
＊②山形県教育委員会としての取組「１．推進校への外部講師の派遣」を参考
３時間：科目「保健」（がん患者への理解と共生について、習得した知識を生かして自他や社会の課題解決方法を思考・判断し、理解を深める授業の実践）
４時間：事後アンケート（生徒の変容を把握する）

＜中学校＞①がん教育講演会の様子

＜中学校＞②授業の様子



＜高等学校＞①がん教育講演会の様子

＜高等学校＞②授業の様子

２．事業の達成度について

推進校におけるアンケート結果（一部抜粋）

質　問	授業前	授業後	増加
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	83.7	93.0	9.3
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	82.2	92.1	9.9
がんは日本人の死因の第２位である。（誤り）	38.3	53.9	15.6
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	69.6	76. 9	7.3
がんになっても生活の質を高めることができる。（そう思う）	18.9	34.8	15.9
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	51.1	68.4	17.3

（%）

<外部講師によるがん教育講演会実施後のアンケート>

・がんという病気はすぐ近くにあり、誰でもがんになるリスクがあることがわかった。日常生活のちょっとした行動でがんになるリスクが上がるので、生活面ではしっかりしていきたい。【中学２年・男子】

・講演を聴いて、がんの細胞ができる原因は食生活が 35%、たばこが 30%と７割ということを聞いてびっくりした。がんとたたかうための治療には、手術やロボット手術などがあると初めて知った。病気と向き合う時は、検診をしっかり受ける、あまり怖がらない、情報をしっかり集めることが大事。改めて『支えがあって仲間がいる』ということを大事にしたい。【中学２年・女子】

・がんは死亡する原因の 1 番の病気で、今の時代には 2 人に 1 人がなってしまう恐ろしい病気だと改めて実感した。がんは自分の生活や周りの人には関係ないことだと思っていたけれど、今は自分もがんになってしまう可能性が高い病気だと感じたので、自分はならないと思わずに常に健康でいられるように生活を見直していきたい。健康に過ごすためにも、大人になったらお酒やたばこを吸わないことを心掛けたい。【高校１年・男子】

・日本人が一番多く亡くなる原因はがんで、2 人に 1 人がなることを聞いて、がんはとても身近な病気ことだと感じた。がんを治すためには、検診をしっかり受ける、正確な治療法を集める、怖がりすぎないことが大切。がん＝死ではない。とても怖い病気と思っていたけど、今では薬、手術、放射線治療などの治療法がたくさんある。がんは必ず死ぬということではなく、新しい何かを得ることもできると思った。がんの種類についてはまだ理解できないので調べてみたい。【高校１年・女子】

・がん経験者の方の話を聞いて、人に相談することや普通に生活を送れる幸せを感じて生活したいと強く思った。いつ誰がなるかわからない病気だから、検診に行ったり、日常の中では食事にも気を遣っていきたい。治療法なども様々ありがんを治すこともできるようになっているので、怖がりすぎないで病気と向き合うことが大切だと思った。【高校１年・女子】

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

❖広報活動、取組み例の紹介

「山形県がん教育総合支援事業」の実践概要、取組例等を県のホームページ他で紹介する。

❖外部講師リストの作成

県内の関係機関と連携しながら、県内医師やがん経験者等、外部講師の情報把握に努める。

❖教員、外部講師の指導力向上

外部講師研修会は県立学校の健康教育研修会を兼ねて実施し、外部講師の人材確保と主に保健体育科教員等を中心とした資質ならびに指導力向上を目指しながら、学校全体でがん教育を推進していく体制を構築していきたい。

❖推進校での取組み

外部講師講演会では、講師 2 名の同時派遣等による生徒の興味関心を惹きつける展開の工夫や内容の充実を目指す。また、単年度またはクラス・学年内での取り組みで終わることのないよう、特別活動や総合的な学習の時間、PTA 活動、学校保健委員会等につながるような指導や周知に努める。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

■県の事業「子どもの健康づくり連携事業」の専門医派遣事業と連携しながら、推進校以外でもがん教育の推進を後押ししていく。

■各学校での健康教育の推進に向けた、がん教育の実践例等の紹介、周知に努める。

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	茨城県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

全員で 13 人【内訳：がん専門医、予防医療専門医、医師会(学校医)、がん体験者、がん体験者支援団体代表、公立小学校教諭（保健体育免許保有）、公立中学校保健体育科教諭、県立高等学校保健体育科教諭、公立小学校養護教諭、県保健医療部健康推進課がん･循環器病対策推進室長、県教育庁義務教育課指導主事、県教育庁高校教育課指導主事、県教育庁保健体育課長】

２．開催時期、検討内容

７月８日（金）　第１回がん教育推進協議会（令和４年度がん教育推進計画の検討）出席者13名

１月20日（金）　第２回がん教育推進協議会（がん教育講演会実施報告、事業成果の検証）出席者13名

②　教育委員会としての取組

１．がん教育に関する研修会

日時：12 月７日（水）茨城県教育研修センター　ハイブリッド型

内容：小学校・義務教育（前期課程）の教員及び外部講師に対し、がん教育について理解を深めるため、文部科学省健康教育調査官による専門の講義、小学校の実践発表の研修を行った。

【参加人数：教職員 470 人、外部講師 20 人】

２．児童生徒対象のがん教育講演会

小学校 16 校、中学校９校、高等学校５校、計 30 校の児童生徒を対象に、医師等やがん体験者による講演を行い、がんそのものの理解やがん体験者に対する理解を深めた。

【小学校 16 校】

水戸市立双葉台小学校　水戸市立大場小学校　茨城町立大戸小学校
大洗町立大洗小学校　東海村立照沼小学校　鹿嶋市立波野小学校
牛久市立牛久小学校　つくば市立葛城小学校　つくばみらい市立福岡小学校
常総市立豊岡小学校　神栖市立波崎西小学校　石岡市立小幡小学校
龍ケ崎市立大宮小学校　稲敷市立江戸崎小学校　境町立長田小学校
五霞町立五霞東小学校

【中学校９校】

龍ケ崎市立城西中学校　牛久市立牛久第三中学校　稲敷市立江戸崎中学校
小美玉市立小川南中学校　大子町立大子西中学校　日立市立助川中学校
神栖市立神栖第三中学校　石岡市立府中中学校　県立土浦第一高等学校附属中学校

【高等学校５校】

県立大子清流高等学校　県立三和高等学校　県立境高等学校　県立波崎高等学校
県立牛久栄進高等学校

３．がん教育教材の作成・配付

がん教育教材「知っていますか？がんのこと」の作成・配布をするとともにがん教育指導参考資料を県教育委員会ＨＰへ掲載し活用促進を図った。

【配付対象】小学６年生を対象に県版リーフレットを配付

【配信対象】小・中・高等学校へ（リーフレット、指導資料集、パワーポイント資料、動画教材）

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

・県保健医療部と連携・協力し、がん拠点病院等への講師登録依頼を行うとともに、引き続き、学校への協力を依頼した。

・教材や指導参考資料に掲載しているデータ等について、県保健医療部の協力を得ながら修正を行った。

・がん教育講演会の講師については、医師等の派遣を希望する学校には県内のがん拠点病院等において外部講師リストに登録している医師等に、がん体験者の派遣を希望する学校にはがん体験者団体等に協力を得て選定・派遣を行った。
・がん体験者団体の研修会に県保健体育課からがん教育担当者を派遣し、講演会実施に係る留意点等について共通理解を図った。

（２）モデル校における取組

小学校 16 校、中学校９校、高等学校５校、計 30 校において、各学校の計画に基づき、医師等又はがん体験者を講師として派遣し、講演会を開催した。発達段階や学校の実情に応じて目標を設定し、科学的な根拠に基づいたがんについての正しい知識を身に付けるとともに、がん患者に対する正しい認識を深めることができた。

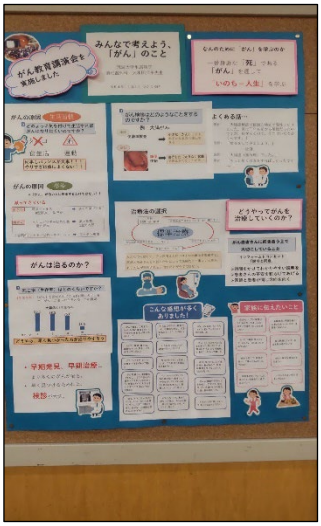
小学校においては、学級担任を中心に、６学年体育科保健領域の病気の予防の授業と関連させて学級活動の中で取り扱ったり、県版のリーフレットに記載してある読み物資料を活用した特別の教科道徳として取り扱ったりするなど、がん教育の目標を達成できるよう教育活動全体を通して計画的に実施した。

中学校及び高等学校では、教科担任及び養護教諭を中心に保健の授業を核とし、発展的な学習として講演会を位置付けることで、より効果が高まるようにした。

《モデル校のテーマ》（例）
・がんを学び、これからの自分にできることをしよう（小学校：講師 がん体験者）
・がんを学び、自他の健康と命の大切さについて考えよう
（中学校：講師 がん体験者）
・がんに関する正しい知識を身に付け、これからの実生活に生かそう
（高等学校：講師 医師）

＜オンラインを活用した講演会＞

＜全校生徒の参加による講演会＞



＜がんに関する授業の掲示物＞

【学年別受講児童生徒数】 （人）

学年	小４・５・６	中１	中２	中３	高１	高２	高３	合　計
人数	989	276	451	73	621	0	183	2,593
合計	989	800			804			

【教職員、保護者、その他の参加者】 （人）

教職員	保護者	学校三師	その他	合計
219	124	2	20	365

（３）その他　＜外部講師活用の工夫＞
・医師等を講師とした講演会では、指導の標準化を図るため、県保健体育課で作成したスライドを活用し、指導内容の共通理解を図るとともに、講師が適宜活用できるよう配慮した。

・がん体験者団体が主催する研修会において、県の担当者ががん教育に関する国や県の動向及び講演会に係る留意点等を含めた内容を伝達するなど、事前に十分な共通理解を図ることで、学校でのがん教育講演会の円滑な実施につながるように工夫した。
・文部科学省作成のガイドライン、教材及び県版のリーフレット等を提供し、適宜活用するよう依頼した。
・外部講師登録をしている医療機関及びがん体験者団体に対し、県主催のがん教育指導者研修会（動画配信）の案内をし、参加を呼びかけた。
・講師の資質向上に向け、文部科学省主催の「外部講師活用研修会」、「がん教育シンポジウム」の開催を案内し、参加を呼びかけた。

２．事業の達成度について

がん教育講演会実施校（小学校 16 校、中学校９校、高等学校５校、計 30 校）の児童生徒を対象に、講演会の事前及び事後にアンケートを行い、その比較により第２回がん教育推進協議会において事業の評価検証を行った。

（１） 児童生徒の事前･事後アンケート結果（主なもの）＜令和４年度＞

［ １）がんの学習について ］

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」から選択。 [事前] [事後]

a 「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。」（そう思う）･････････ 80%→90%（+10）
b 「がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。」（そう思う）･････････ 80%→89%（＋９）

［ ２）知識編 ］

※「正しい」、「誤り」から選択。 [事前] [事後]

a 「がんは誰もがかかる可能性のある病気である」（正しい）･･････････････ 94%→97%（+3）
b 「がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある」（正しい）･･･ 97%→93%（−4）
c 「がんは日本人の死因の第２位である」（誤り）･････････････････････････ 40%→62%（+22）
d 「たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある」（正しい）･････････････････････ 93%→94%（＋１）
e 「早期発見すれば、がんは治りやすい」（正しい）･････････････････････････ 88%→96%（＋８）
f 「体の調子がよい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい」（誤り）･････ 69%→89%（+20）
g 「がんの治療法には手術治療しかない」（誤り）･････････････････････････ 72%→87%（+15）
h 「がんの痛みは我慢するしかない」（誤り）･････････････････････････････ 74%→85%（+11）

［ ３）意識編 ］

※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」から選択。 [事前] [事後]

a 「自分はがんにならないと思う」（思わない）･････････････････････････ 36%→47%（+11）
b 「将来、たばこを吸わないでいようと思う」（そう思う）･････････････････ 83%→84%（＋１）
c 「日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」（そう思う）･････････････････････････････････････ 63%→74%（+11）
d 「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」（そう思う）･･･ 61%→74%（+13）
e 「がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである」(思わない)･････ 21%→34%（+13）
f 「がんになっても生活の質を高めることができる」（そう思う）･････････････ 24%→36%（+12）
g 「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」（そう思う）･････････ 70%→78%（＋８）
h 「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」（そう思う）･･･ 51%→68%（+17）
i 「家族や身近な人が健康であってほしいと思う」（そう思う）･････････････ 91%→92%（＋１）
j 「長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う」（そう思う）･･･ 81%→85%（＋４）

（２）がん教育講演会を実施して効果が上がったものと考えられる事項

児童生徒は、がん教育講演会を実施したことにより、がん教育の必要性を感じるとともにがんに関する正しい知識を身に付けることができた。また、習得した知識をもとに健康や命の大切さについて主体的に考え、実生活に生かそうとする態度を身に付けることができた。

＜５ポイント以上効果が上がったアンケート項目＞

・がん教育の必要性について〔１）がんの学習について a、b〕
・がんに関する正しい知識〔２）知識編 c、e、 f 、g、 h〕
・がんの予防について（運動・食事・検診等）〔３）意識編 a、c、d、e、h〕
・がん患者への認識〔３）意識編 f、g〕

（３） 考察

○　児童生徒へのアンケート結果から

事前と事後のアンケート結果を比較すると、ほとんどの回答でプラスになっている。特に大きく伸びた項目としては、「がんは日本人の死因の第２位である（誤り）」、「体の調子がよい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい（誤り）」、「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）」が挙げられる。児童生徒のがんに関する正しい知識は定着しつつあると考えられる。

また、児童生徒の感想には「がんの正しい知識や予防についてより深く学習することができた」、「家に帰ったら講演会の話を親にしたい」といった内容のものもみられ、自分だけではなく、周囲のことも考えられるようになったことが伺える。がん教育講演会を通して、「健康のありがたさ」や「命の大切さ」について学ぶことができたり、がんの正しい知識や予防についてより深く学習したりすることができた。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

①　県に外部講師を登録している医師等のさらなる活用を目指し、各学校から医師等への依頼を促していきたい。そのための方策を検討する。

②　講師の資質向上を目的として、茨城県がん体験談スピーカーバンク、各病院等と連携・協力しながら、県教育委員会主催の研修会の案内を周知していき、受講者を増やしていく。

③　がん体験者講師の資質向上に向け、がん体験者の勉強会に県教育委員会担当者が参加する取組を今後も継続していく。

④　がん教育講演会を開催するに当たり、教育委員会や県立学校と連携し、周囲の学校へ開催の周知をするとともに、他校の教員による講演会への参加を促し、その教育的効果を啓発していく。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

①　県が作成する教材について

・毎年度、県版リーフレット等の時点修正の実施
・がん教育総合支援事業を活用した県版リーフレットの配布
・各学校における授業での活用への周知

②　学校におけるがん教育に関する実施について

・発達段階や学校の実態に応じた小学校におけるがん教育の推進と保健体育科での確実な実施
・高等学校におけるがん教育講演会実施率の向上
・小・中・高等学校の系統性を踏まえた指導計画の作成

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	群馬県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

１４名【内訳：大学教授２名(医学系研究科１名、保健医療学部１名)、大学附属病院腫瘍センター長１名、学校医２名(小児科、内科医)、学校歯科医１名、学校薬剤師１名、がん患者団体連絡協議会１名、ＰＴＡ連合会１名、高等学校ＰＴＡ連合会１名、県看護協会１名、県立がんセンター医師１名、保健所長１名、県健康福祉部感染症・がん疾病対策課主監１名】

２．内容

事業を推進するに当たって中核をなす組織で、がん教育の推進を図るために作成する「がん教育に関する計画」に対し、指導、助言を行うとともに、進め方等について検討した。また、実践授業を参観し、事業の成果の検証等を行った。

３．開催時期、検討内容

期　　日	場　　所	内　　容
10 月 5 日(水) 19:00～20:30	群馬県庁 291 会議室	・がん教育に関する計画、教材、内容や進め方について ・がん教育推進のための外部講師整備体制等について
2 月 7 日(火) 19:00～20:30	群馬県庁 291 会議室	・今年度の取組及び来年度の計画について ・各学校での取組の推進について ・今後のがん教育の内容や進め方について

②　検討委員会について

１．構成員

18 名【内訳：大学教授１名(保健医療学部)、教員３名(小学校１名、中学校１名、高等学校１名)、養護教諭３名(小学校１名、中学校１名、高等学校１名)、指導主事８名(県内各教育事務所及び市教育委員会事務局)、県健康福祉部感染症・がん疾病対策課主任１名、県教育委員会指導主事２名】

２．内容

実践推進校において、がん教育を具体的に展開するための計画及び持続可能な実践内容等を検討した。

３．開催時期、検討内容

期　　日	場　　所	内　　容
10 月 27 日（木） 15:00～16:00	前橋市立大胡小学校 会議室	・大胡小学校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び説明 ・がん教育を推進する上での課題及び外部講師の活用
12 月 2 日(金) 14:45～15:45	前橋市立大胡中学校 図書室	・大胡中学校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び説明 ・中学校でがん教育を推進する上で考えられる課題 ・今後の予定や方向性、指導者研修会等の持ち方
12 月 15 日(木) 15:30～16:30	群馬県立前橋東高等学校 大会議室	・前橋東高校でのがん教育授業及び取組内容の検討及び説明 ・小中高での系統性を踏まえた学習の課題

③　教育委員会としての取組

6月	1　関係機関と打合せ 2　がん教育に関する指導者研修会　6月24日(金)　オンライン開催（総合教育センター） ①　講義　「がん教育の考え方・進め方」 講師　日本女子体育大学体育学部部　健康スポーツ学科　教授　助友　裕子 ②　実践発表　「令和3年度がん教育の実践について」 発表者①明和町立明和西小学校（現任校：太田市立西中学校）増田　喬　教諭 発表者②明和町立明和中学校（現任校：太田市立休泊中学校）横塚　美保　教諭 （現任校：太田市立美園小学校）増尾　亜伎 養護教諭 発表者③県立館林商工高等学校　福村　滋　教諭
8月	1　実践校事前アンケート実施及び集計 2　関係機関と打合せ、協議会及び検討委員会等開催準備 3　組織づくり(協議会) 4　文部科学省主催　8月18日(木)～31日(水)　ｽﾄﾘｰﾐﾝｸﾞ配信及び動画配信 がん教育「教材活用研修会」及びがん教育「外部講師活用研修会」について 実践に役立てるため研修会への参加を県内の教職員及び関係機関へ通知 5　実践校校内研修（大胡小及び中学校教職員向け講演会）
9月	1　外部講師選定、派遣申請（前橋東高等学校・大胡中学校） 2　がん検診・がん予防　専門分科会（書面開催） 3　「がん教育外部講師派遣に関する相談窓口一覧（以下、「相談窓口一覧」という。）」の更新
10月	1　第1回協議会開催 10月5日（水）　群馬県庁291会議室 2　実践校打合せ等（指導案及び教材等検討）前橋市立大胡小学校 3　授業実践、第1回検討委員会開催（前橋市立大胡小学校）
11月	1　実践校打合せ等（指導案及び教材等検討）前橋市立大胡中学校及び県立前橋東高等学校 2　外部講師選定、派遣申請（大胡小学校） 3　実践校講演会（県立前橋東高等学校）
12月	1　授業実践、第2回検討委員会開催（前橋市立大胡中学校） 2　実践校講演会（前橋市立大胡小学校及び前橋市立大胡中学校） 3　授業実践、第3回検討委員会開催（県立前橋東高等学校）
1月	1　実践校事後アンケート実施及び集計 2　まとめ及び協議会資料作成
2月	1　第2回協議会開催　2月7日（火）　群馬県庁291会議室 2　文部科学省主催　2月6日(月)～20日(月)　ｽﾄﾘｰﾐﾝｸﾞ配信及び動画配信　がん教育ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ 実践に役立てるため研修会への参加を県内の教職員及び関係機関へ通知
3月	1　群馬県学校保健審議会　3月10日（金）　群馬県庁281-B会議室

④　保健部局や地域の専門機関等との連携

健康福祉部感染症・がん疾病対策課と連携し、がん診療連携拠点病院、群馬県がん診療連携推進病院、小児がん連携病院の協力のもと、令和４年度「相談窓口一覧」の内容を確認し、更新した。学校が、外部講師としてがん経験者を依頼したい場合は、健康福祉部感染症・がん疾病対策課が窓口となっている。また、群馬県版「がん教育の手引き」と共に、外部講師派遣実施要項及び各種様式、相談窓口一覧を県総合教育センターのホームページに掲載し、学校が活用しやすいようにしている。

（２）モデル校における取組

①前橋市立大胡小学校　第６学年

時期	時間	内　容
４月	道徳	○生命の尊さ「かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てる」
10月27日	体育	○単元名　「病気の予防」 ○本時の目標　「身近な病気、がんについての正しい知識、「予防できること」「早期発見によって治癒する可能性が高いこと」等を理解する。また、自分のためにできることを主体的に考え、命の大切さについて理解する。」
11月	道徳	○生命の尊さ「自他の生命を尊重し、力強く生きていこうとする心情を高める」
12月12日	学級活動	○講演会　講師：群馬中央病院　院長　内藤　浩先生 演題：「がんについて」 ○授業を踏まえ、医療現場に臨む医師からの視点で、がんに関連する内容を知ることで、がんに関する知識や思考を広めたり、深めたりする。

②前橋市立大胡中学校　第２学年

時期	時間	内　容
12月2日	保健体育	○単元名　健康な生活と疾病の予防「がんとその予防」 ○本時の目標　「自分自身の生活を振り返り、どのようにしたら今後の生活をより良くすることができるか考える。また、友達と生活の問題点を確認し、改善点を行動宣言という形で発表できるようにする。」
12月14日	学校保健委員会	テーマ「あなたが大切～がんを考える～」 ・自己の生活やがんに対する考え方について振り返るとともに、がんに対する偏見をなくし、今後の生活について考える。 ○生徒保健委員会による発表 ○講演会　講師：群馬中央病院　院長　内藤　浩先生 演題：「中学生に知ってもらいたいがんのこと」

③群馬県立前橋東高等学校　第１学年

時期	時間	内　容
11月30日	ＬＨＲ	○講演会　講師：萬田　緑平先生 演題：「最期まで目一杯生きる」 ○緩和ケア専門医の講話を通して、がん患者の思いを知ることで、共生や患者への寄り添い方について考え、今後の学習に生かす。
12月15日	保健体育	○単元名　「がんの原因と予防・がんの治療と回復」 ○本時の目標　「自分が「がん」に罹患したとき、「大切にしたいこと」について考える。また、「がん」に罹患した人の「大切にしたいこと」にどのように「寄り添う」ことができるか考える。」

２．事業の達成度について

（小学校）　「がん」をより深く具体的に知ることにより、自分の生活との関わり方を考えることができ、「生きた知識」になっていく様子が見られた。

質　問	事前（%）		事後（%）	
	正しい	誤り	正しい	誤り
早期発見すれば、がんは治りやすい。	68	32	100	0
体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	9	91	0	100
がんの治療には手術治療しかない。	14	86	0	100

（中学校）　自分の生活で何を改善したらよいのか振り返る活動は、生活習慣アンケートや既習事項と関連づけられた実践的なものであった。

質　問	事前（%）				事後（%）			
	そう思う	どちらかと言えば		そう思わない	そう思う	どちらかと言えば		そう思わない
		そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	57	40	2	1	72	28	0	0
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	58	35	5	2	80	19	1	0
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	22	40	17	21	7	18	30	45

（高等学校）　がんについての学びをこれからの社会でどう生かすか、その具体的な策を得ることができた。

質　問	事前（%）				事後（%）			
	そう思う	どちらかと言えば		そう思わない	そう思う	どちらかと言えば		そう思わない
		そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	0	32	14	54	2	8	23	67
がんになっても生活の質を高めることができる。	43	29	20	8	46	41	13	0

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（課題）

・小、中学校の連携及び高等学校へつなげるための系統性を意識した学習指導の工夫を明確にすること。

・研修会を通して、指導主事、教職員などへ具体的な取組を示し、教科横断的な学習の啓発を行うこと。

（令和５年度の取組について）

・「がん教育総合支援事業」を活用し、がん教育の啓発を行っていく。

・ホームページ掲載の群馬県版「がん教育の手引き」、「がん教育に係る外部講師派遣」実施要項及び各種様式、「相談窓口一覧」について、がん診療拠点病院に周知、確認依頼を行い、「相談窓口一覧」については年度更新し、希望する学校が活用しやすい体制を整えておく。

・群馬県版「がん教育の手引き」等を指導者研修会で周知し、各学校での取組の充実に繋がるようにする。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・教職員、外部講師希望者向け「がん教育に関する指導者研修会」の内容を充実させることで、各学校のがん教育の実践に生かせるようにするとともに、群馬県版「がん教育の手引き」の周知を行い、系統性を考えた学習指導ができるようにしていく。

・「がん教育に係る外部講師派遣」実施要項及び各種様式と「相談窓口一覧」の周知を行い、学校の実態に合わせて、外部講師を活用した学習指導（講演会等）が行えるようにする。

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	埼玉県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

全員で２４人（内訳：大学准教授１人、がん専門医１人、医師会１人、病院薬剤師１人、がん経験者１人、校長３人、市町村教育委員会指導主事２人、教諭４人、養護教諭４人、県保健医療部１人、県教育局５人）

委員のうち学校関係者については、原則として各団体等からの推薦によるものとし、「校長会（小・中・高）」「学校体育連盟等（小・中・高）」「養護教諭会」と連携した。また、「医師会」「病院薬剤師会」「保健医療部疾病対策課」と連携した。

２．開催時期、検討内容

・第１回協議会　令和４年７月１２日（火）（がん教育推進計画の検討・決定）

・第２回協議会　令和５年１月１１日（水）（がん教育推進計画の事業報告・成果の検証）

②　教育委員会としての取組

○がん教育指導者研修会（学校の教職員・教育委員会の担当者・外部講師等を対象）

教職員及び外部講師等を対象に、がんの正しい知識や理解を図ること及び指導方法等を充実させることを目的として開催した。がん教育を実施する上での留意事項等の行政説明、実践者（小・中・高）による発表、有識者による講演、質疑等を通して、教職員及び外部講師等の資質向上を図った。

○がん教育授業研究会

小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及、及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を目的として開催した。

・小学校授業研究会　特別の教科　道徳　（会場：羽生市立新郷第一小学校）

・中学校授業研究会　保健体育科保健分野　（会場：小鹿野町立小鹿野中学校）

・高等学校授業研究会　保健体育科科目保健　（会場：県立松山女子高等学校）

○実施報告書の作成及び普及

研修会資料や実践授業の学習指導案等を掲載した実施報告書を作成し学校等に送付するとともに、県ＨＰに掲載した。

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

○保健医療部疾病対策課が実施する「がん教育出前講座」の、学校への周知等の連携

○保健医療部疾病対策課と連携した「がん教育外部講師派遣事業」の実施

学校からの依頼を受け、県の登録外部講師から条件（講師種別・指導内容・日時・謝金等）に合致する外部講師を選定し、通知した。

○保健医療部疾病対策課と連携した「外部講師研修会」の開催

外部講師（医療関係者、がん経験者等）及び市町村教育委員会の指導主事等を対象に、外部講師と連携したがん教育を実施する上での留意事項や効果的な進め方についての行政説明、外部講師実践者（医師・がん経験者）による実践発表（模擬授業等）、パネルディスカッションを通して、外部講師の資質向上に資することを目的として開催した。

（２）モデル校における取組

○がん教育授業研究会

小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及、及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を目的として開催した。

【小学校授業研究会】

体育科・道徳科・特別活動の教科等横断的な取組を実施。公開授業では、特別の教科　道徳において、小児がんを題材とした教材を通して、限りある命を輝かせて生きることの尊さや生きることの意義について考え、生命を尊重しようとする態度を育てる事ができた。

また、授業研究会の実施後、学級活動（２）において「病気の予防や望ましい生活習慣の確立」及び「自他の健康や命、人との関わりを大切にし、共に生きていく態度」について意思決定する内容で教師とがん専門医である儀賀医師（埼玉医科大学総合医療センター）によるＴ・Ｔ（ティーム・ティーチング）による指導を実施した。外部講師と連携した取組により、児童は自分事として捉えるとともに、具体的な意思決定をすることができた。また、実施前にそれまでの児童の学習の様子を外部講師に見ていただくことにより、スムーズかつ効果的な取組につながった。

（１）日　時　　令和４年１０月１９日（水）
（２）参加者　　小・中学校管理職及び教職員（教諭、養護教諭、保健主事等）、特別支援学校教職員
　　教育委員会の指導主事、外部講師関係者等
（３）会　場　　羽生市立新郷第一小学校
（４）授業者　　工藤　隆太　教諭
（５）題　材　　特別の教科　道徳　　主題名　命のかがやき　内容項目　【Ｄ　生命の尊さ】
　　教材名　命を見つめて　（出典「新・みんなの道徳６」学研）
（６）参加人数　小・中学校及び特別支援学校の管理職、教職員、指導主事、医師、薬剤師等　７４人

教師・児童間の対話の様子

生き方をテーマに話し合う様子

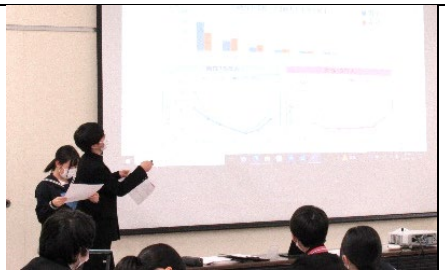
終末でＩＣＴ機器を活用する様子

【中学校授業研究会】

保健体育科保健分野において、既習事項や新たな知識について生徒の関心を高める「○×クイズ」による導入、既存のデータと身近なデータ（当該校の食生活や体格、地域の検診の受診率の実態など）を組み合わせた多様なデータを分析するとともに学級全体で共有する展開、学んだこと踏まえてがんを予防するための自分なりの○か条を作成するなど、健康に関心をもち課題を解決する学習活動により、学びを深めることができた。

また、授業研究会の実施後、学級活動（２）の「心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の育成」において、地域の内田医師（小鹿野町立病院院長）を招き、「いのちの大切さ」「将来がんや病気にならないために今からできること」「がんになった時にどう向き合っていくか」について緩和ケアも含めた話を聞くことにより、生徒の将来を見据えた価値ある学習とすることができた。

（１）日　時　　令和４年１１月２９日（火）
（２）参加者　　小・中学校管理職及び教職員（教諭、養護教諭、保健主事等）、特別支援学校教職員
　　教育委員会の指導主事、外部講師関係者等
（３）会　場　　小鹿野町立小鹿野中学校
（４）授業者　　笠原　勇人　教諭
（５）単　元　　保健体育科（保健分野）第２学年「（１）健康な生活と疾病の予防」
　　（ウ）生活習慣病などの予防
（６）参加人数　小・中学校及び特別支援学校の管理職、教職員、指導主事、医師等　５７人



導入の○×クイズの様子　　ICT 機器を活用した調べ学習の様子　　生徒による発表の様子

【高等学校授業研究会】

保健体育科科目保健の授業を実施した。各班に違った資料（複数の資料を組み合わせたもの）を分析させ、全体で共有する中で各資料を結び付けて考えさせることにより、主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動となり生徒の総合的な理解を深めることができた。その際、ＩＣＴ機器の活用や、教師の体験談、各自治体におけるがん検診の啓発ＣＭの映像などを組み合わせることで効果的に行うことができた。

また、授業研究会の実施後、ホームルーム活動（２）の「生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立」において、がん専門医である儀賀医師（埼玉医科大学総合医療センター）を招き、がんについての基礎的な内容に加えて、がんと就労について考えること、がんと向き合って生きる人の人生などの話を通じて、健康と命の大切さについて主体的に考えるとともにがんについての理解を一層深めることができた。

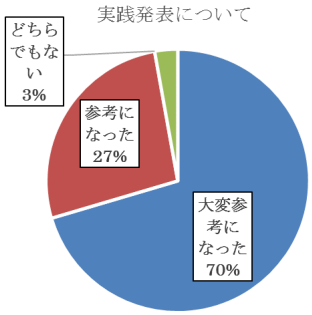
（１）日　時　　令和４年１１月１６日（水）
（２）参加者　　高等学校・特別支援学校教職員（保健体育科、養護教諭、保健主事等）、外部講師関係者等
（３）会　場　　県立松山女子高等学校
（４）授業者　　大久保　亜耶　教諭
（５）単　元　　保健体育科（科目保健）第１学年「（１）現代社会と健康」
（ウ）生活習慣病などの予防と回復
（６）参加人数　高等学校・特別支援学校教職員、がん経験者、医師、看護師、行政担当者、学生等　２８人

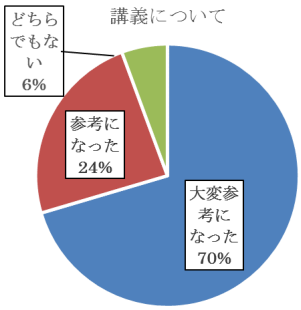
調べた内容を発表する様子　　グループワークの様子　　教師による話の様子

２．事業の達成度について

（１）「 がん教育 」指導者研修会

ア　がんについての正しい知識や理解を深めること、及びがん教育の指導の充実に資するための研修会を実施したことにより、がん教育の必要性の理解が進むとともに、実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。





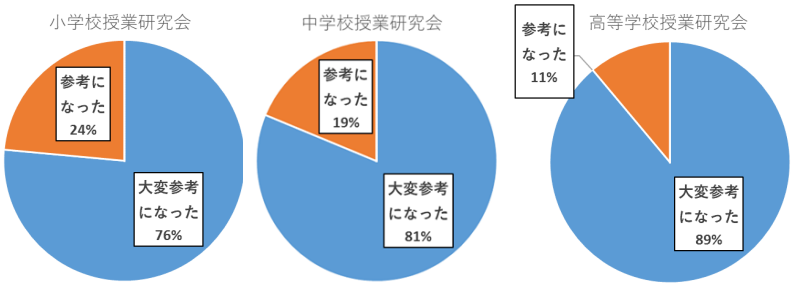
イ　実践発表では、授業者がもつゴールイメージ、実践までの葛藤など、授業づくりの具体に触れることで、参加者の理解が深まった。また、系統性を踏まえた指導の必要性についての理解も深まった。

ウ　東海大学体育学部教授　森　良一氏による講演「学校におけるがん教育の推進～新学習指導要領の考え方を踏まえて～」により、新学習指導要領に基づくがん教育をはじめとする保健教育の効果的な指導方法など授業づくりの考え方、進め方について理解を深めることができた。

（２）授業研究会について

ア　授業実践について検討するため、会場校における授業検討委員会に加えてオンライン会議システムによ

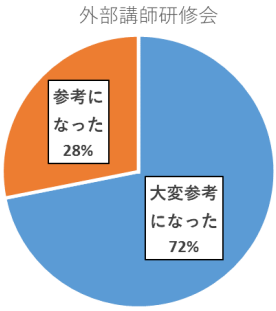
る打ち合わせなど、授業者及び関係の指導者等が計画段階から綿密に打ち合わせを重ねたことにより、各学校種の発達段階に応じた効果的な指導方法の提案ができた。また、研究協議では多様な立場の方同士の協議により理解が深まるなど参加者の満足度が高かった。



イ　全てのモデル校で、がん専門医や地域の医療機関の医師と連携した事後指導を実施することにより、一層効果的ながん教育につながった。次年度の研修会で外部講師との連携の成果について普及していく。

ウ　文部科学省作成の教材及び国立がん研究センターが作成した統計データや図表などを効果的に活用した授業展開を提案することができ、参加者の実践に向けた意識を高めることにつながった。

（３）外部講師研修会について



ア　外部講師と連携したがん教育を実施する上での留意事項や効果的な進め方についての行政説明、外部講師実践者（医師・がん経験者）による実践発表（模擬授業等）、及びパネルディスカッションを通して、外部講師の資質向上に資することができた。

イ　研修会終了後にも参加者（会場及びオンライン）から多くの質問が寄せられるなど、講義などの一方的な内容だけでは得られない成果も見られ、双方向での対話的なやり取りなどができたことについて、参加者の満足度も高かった。今後も、外部講師同士の交流や連携のあり方を模索していきたい。

ウ　研修会の参加者のうち、１１名もの方が、県の外部講師として新規登録の意向を示していただくなど、外部講師の人材確保につながった。

（４）外部機関・外部講師との連携について

ア　外部講師との連携に対する関心が高まってきており、保健医療部疾病対策課と連携した取組「がん教育出前講座」「がん教育外部講師派遣」のいずれも前年度比で約１．５倍もの学校から申込みがあった。（出前講座申込４０件、外部講師派遣実施３７件）

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

（１）各学校の教育課程への位置付けの明確化

ア　新学習指導要領の全校種での実施を踏まえ、学習指導要領に対応したがん教育の効果的な実施について引き続き周知していく。また、学習指導要領に位置付けのない小学校についても、がんを題材とした保健教育を実施するよう周知していく。

イ　がん教育の目標の達成のため、保健の授業でがんについて正しく理解し、関連教科等を通じて、健康や命の大切さ、がん患者への正しい理解について学習していくなど、体育・保健体育の授業を中核に他の教育活動と連携した指導について、モデルとなる取組を継続して提案していく。

（２）外部講師との連携について

ア　保健医療部疾病対策課「がん教育出前講座」は、引き続き連携・協力していく。

イ　「がん教育外部講師派遣事業」における外部講師の選定・依頼・派遣についても、保健医療部疾病対策課と連携して、がん拠点病院・指定病院等の医師や、がん患者会、がん経験者等を学校に派遣できる体制づくりを進めていく。

ウ　県への登録に関連して、研修会及び見学研修の効果的な実施方法などについて、さらに工夫して、外部講師の人材確保及び資質向上に向けた取組を充実していきたい。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

・小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成
・外部講師の育成、外部講師の派遣体制の整備（人材確保と資質向上）
・モデル校での授業実践例の県内への周知とがん教育の確実な実践

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	神奈川県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員　14 名

内訳

氏名	所属及び役職
片山　佳代子	群馬大学情報学部情報学科　准教授 神奈川県立がんセンター臨床研究所がん教育ユニット　ユニット長
助友　裕子	日本女子体育大学体育学部 スポーツ健康学科教授
佐々木　治一郎	北里大学医学部新世紀開発センター 横断的医療領域開発部門　臨床腫瘍学　専門医
長谷川　一男	神奈川県がん患者団体連合会理事
田川　　尚登	NPO 法人　横浜こどもホスピスプロジェクト代表理事
石井　貴士	公益社団法人神奈川県医師会理事
磯崎　哲男	公益社団法人神奈川県医師会理事
島田　武典	神奈川県ＰＴＡ協議会　執行役員
井上　武仁	神奈川県中学校体育連盟会 研究部会会長
田中　礼子	神奈川県学校保健連合会 養護教諭部会部会長
山中　毅	神奈川県福祉子どもみらい局 子どもみらい部私学振興課長
下反 達二	神奈川県教育委員会教育局 支援部子ども教育支援課長
下山田　義行	神奈川県健康医療局 保健医療部がん・疾病対策課長
富澤　桂子	神奈川県教育委員会教育局 指導部保健体育課長

事 務 局：神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課

連携部局：神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課

２．開催時期、検討内容

第１回神奈川県がん教育協議会　オンライン開催６月 22 日（水）

（１）報告事項

ア　神奈川県におけるがん教育の取組について

イ　令和３年度がん教育総合支援事業　事業成果報告について

ウ　令和３年度がん教育実施状況調査について

（２）協議事項

ア　令和４年度がん教育総合支援事業　事業計画について
イ　令和４年度神奈川県がん教育指導者研修講座開催要項について
ウ　令和４年度神奈川県外部講師を活用したがん教育研究授業実施校募集要項について
エ　がん教育動画教材に係る案内について
オ　令和４年度外部講師リスト
カ　指導用補助資料について
キ　医療従事者向け指導者研修について
（３）その他

第２回神奈川県がん教育協議会　オンライン開催２月３日（金）
（１）報告事項
ア　令和４年度神奈川県がん教育の取組について
・文部科学省がん教育総合支援事業報告について
・がん教育研修講座開催要項
・がん教育研修講座アンケート結果
・外部講師を活用した研究授業実施要項
・がん教育総合支援事業評価アンケートについて
・外部講師のリスト化
・神奈川がん教育ガイドラインについて
（２）協議事項
ア　令和５年度がん教育の取組について
・事業計画

②　教育委員会としての取組
〇がん教育協議会の開催　6月 22 日（水）、２月３日（金）
〇がん教育指導者研修講座（教員向け）の開催
・第１回がん教育指導者研修講座　７月８日（金）から７月 29 日（金）
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためオンライン開催
参加人数　317 名
（小学校 25 名、中学校 117 名、高等学校 169 名、その他６名）
・第２回がん教育指導者研修講座　12 月１日（木）から 12 月 23 日（金）
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためオンライン開催
参加人数　223 名
（小学校 18 名、中学校 31 名、高等学校 169 名、その他５名）
〇がん教育ガイドライン作成に係るワーキンググループの開催　７月 27 日（木）、８月 24 日（木）
〇各種教材の内容検討
〇各種会議等でのがん教育の必要性や研究授業の実施について説明

③　保健部局や地域の専門機関等との連携
〇神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課との連携
・研修会等での講師紹介
・がん教育教材（指導用補助資料、スライド教材）の作成
・がん教育指導者研修（医療関係者向け）オンライン開催　※教育委員会、製薬会社共催

10 月 18 日（火）　参加人数 31 名
11 月 14 日（月）　参加人数 65 名

（２）研究授業における取組

〇外部講師を活用したがん教育研究授業の実施

・相模原市立谷口台小学校	10 月 5 日（水）	道徳
・神奈川県立七里ガ浜高等学校	10 月 6 日（木）	保健
・横須賀市立長井中学校	10 月 18 日（火）	保健体育（保健分野）
・神奈川県立大師高等学校	10 月 21 日（金）	保健
・神奈川県立相模原中等教育学校	10 月 25 日（火）	保健体育（保健分野）
・寒川町立寒川中学校	10 月 28 日（金）	道徳
・横浜市立南希望が丘中学校	11 月 1 日（火）	総合的な学習の時間
・神奈川県立大和南高等学校	11 月 7 日（月）	総合的な探究の時間
・神奈川県立七里ガ浜高等学校	11 月 22 日（火）	家庭科
・神奈川県立綾瀬高等学校	12 月 13 日（火）	保健
・神奈川県立鶴嶺高等学校	12 月 19 日（月）	特別活動
・神奈川県立茅ケ崎高等学校（定時制）	令和５年１月 13 日（金）	総合的な探究の時間
・藤沢市立湘南台中学校	令和５年１月 25 日（水）	保健体育（保健分野）

２．事業の達成度について

1　がん教育協議会の開催

・神奈川県でのがん教育の現状について関連部署等と共有し、国の最新の動向や先進事例等を把握するとともに課題を明確にし、県の取組に活かすことができた。

2　がん教育指導者研修講座(教員向け)の開催

・学校教職員が、がん教育の必要性を理解するとともに、がん教育の指導法を高めることができた。また、外部講師活用についてその意義を理解できた。

・今年度から県立高等学校の保健体育科教諭を悉皆の参加とした。

3　がん教育指導者研修講座（医療関係者向け）の共催

・医療関係者が、がん教育の必要性を理解するとともに、がん教育の指導法を高めることができた。

・新たな外部講師登録者の増加に繋がった。

・関係機関（他部局や民間製薬会社）との連携を深めることができた。

4　神奈川県がん教育ガイドライン[※1]の作成

・活用を促進することで、外部講師による講演等の質の向上、学校における外部講師活用率の向上に繋がる。

5　神奈川がん教育動画教材[※2]の作成

・活用を促進することで、がん教育授業の質の向上と外部講師活用率の向上に繋がる。

※1 神奈川県がん教育ガイドライン

※2 がん教育動画教材（例：神奈川県立がんセンター）

6　外部講師を活用したがん教育研究授業の実施

・研究授業の実施校数を大幅に増やし、外部講師活用の意義や必要性を普及することができた。

・外部講師等の活用方法や、授業での実施内容、方法について、研究協議にて課題等を共有することができた。

7　各種の会議等で「がん教育」の必要性・研究授業の実施について説明

3．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

1　がん教育指導者研修（教員向け）の更なる充実

・研修内容の見直し（授業実践の視聴等）

2　がん教育関係教科のがん教育への関わりを推進

・保健体育科以外のがん教育に関わる教科・科目において学習を深め、関連できるよう研究授業等で先進的な取組を行っていく。

3　外部講師を活用したがん教育の推進

・神奈川がん教育ガイドラインを周知する。

・研究授業実施校数を増加させる。

4　外部講師の発掘・育成

・医療関係者向け研修等を通じて、新たな外部講師を育成していく。

5　外部講師の研修体制の確立

・外部講師として、学校で、がん教育を実施する方に対する研修について、関係機関と外部講師の確保・育成について検討していく。

6　外部講師の完全オンライン授業を検討

・教育格差の是正、医師の働き方改革

4．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

〇がん教育教材（指導用補助資料、スライド教材、動画教材）の更新

令和４年度

がん教育総合支援事業　事業成果報告書

地方公共団体名	富山県

１．事業の具体的内容について

（１）自治体における取組

①　協議会について

１．構成員

ア　委員：９人

医師２人（小児科、腫瘍内科）

校長３人（小、中、高）

県がん総合相談支援センター１人

県学校保健会１人

県厚生部健康課がん対策推進班長１人

県教育委員会保健体育課長１人

イ　事務局：３人

県教育委員会保健体育課

食育安全班長１人、指導主事２人

富山県がん教育に関する協議会委員

	所属及び役職
1	富山県医師会副会長
2	富山県医師会理事
3	富山県高等学校長協会代表
4	富山県中学校長会代表
5	富山県小学校長会代表
6	富山県がん総合相談支援センター統括相談員
7	富山県学校保健会事務局長
8	富山県厚生部健康対策室健康課がん対策推進班長
9	富山県教育委員会保健体育課長
	事務局：富山県教育委員会保健体育課

２．開催時期、検討内容

第１回がん教育に関する協議会（R4.9　書面開催）

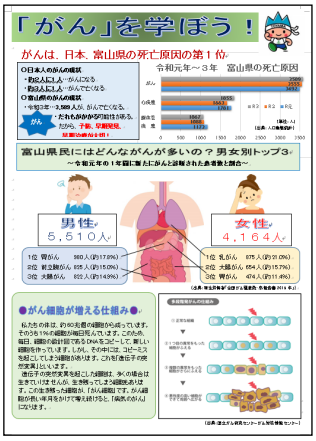
・事業実施計画

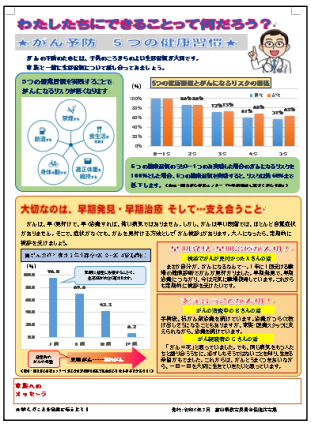
・具体的内容について検討

第２回がん教育に関する協議会（R5.1）

・事業実施報告

・今後の取組について検討





②　教育委員会としての取組

○　県がん教育総合支援事業協議会の開催

○　「外部講師を活用したがん教育」出前授業実施校の募集（R4.4～R4.5）

○　「外部講師を活用したがん教育」出前授業実施校の決定（R4.6）

○　「外部講師を活用したがん教育」出前授業実施校への講師の派遣調整

○　「外部講師を活用したがん教育」出前授業の実施（R4.11～R5.1）

・小学校３校、中学校３校、県立高等学校１校

○　保健体育課主催の研修会におけるがん教育の周知（R4.11）

・学校におけるがん教育の考え方や進め方について

○　県内のがんの現状やがん経験者の声を掲載したがん教育啓発リーフレット及びポスターの作成・配布（全中学２年生配布）

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

がん教育出前授業・外部講師を活用したがん教育の講師派遣にあたっては、講師派遣依頼の窓口を教育委員会とした。教育委員会が、関係機関（県健康対策室、各病院、県がん総合相談支援センター）に相談・依頼し、学校の実情を踏まえて、医師や看護師のほか、がんピアサポーターの派遣を行った。

がんピアサポーターの派遣については、県厚生部健康課がん対策推進班を通じて、県がん総合相談支援センターに講師派遣協力依頼することにより、講師（がんピアサポーター）派遣の調整がスムーズに行われた。県がん総合相談支援センターとの連携により、学校のニーズに応じた外部講師（がんピアサポーター）の派遣を行うことができた。

（２）モデル校における取組

上市町立南加積小学校

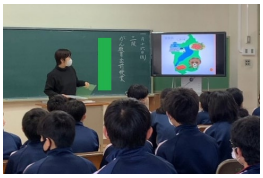
○　教育課程上の位置付け　　６学年　体育科保健領域
○　実施日　　令和４年１１月７日（月）
○　講　師　　富山県がん総合相談支援センター　ピアサポーター
○　授業内容　がんを患った外部講師の方の体験談を聴き、「生きる」ことについて考える。
・がんを宣告され、今に至るまで
（「生きる」ための選択、がんを患う自分も自分なのだと認めることについて）
・がんの経験を通して、伝えたいこと
（がん検診を受けること（早期発見）の大切さ、生きていることの大切さ、様々な人との出会いの大切さ）

小矢部市立大谷小学校

○　教育課程上の位置付け　　６学年　体育科保健領域
○　実施日　　令和４年１２月１３日（火）
○　講　師　　富山県がん総合相談支援センター　ピアサポーター
○　授業内容　がん経験者の外部講師の方から体験を踏まえた話を聴く。
・がん治療を続けられた理由（ピアノ演奏を聴いて）
・がんや抗がん剤のイメージ（抗がん剤の副反応等について）
・がんが判明してからの生き方（治療時の体調や心情等について）
・がんの罹患数と日本人の平均寿命について（資料を通して）
・私たちにできること（早期発見の大切さ、大事な家族のためにできること、がんのワクチン）

高岡市立博労小学校

○　教育課程上の位置付け　　６学年　体育科保健領域
○　実施日　　令和５年１月１６日（月）
○　講　師　　富山県がん総合相談支援センター　ピアサポーター
○　授業内容　がん経験者の外部講師の方から治療の様子や家族の支え等、体験を踏まえた話を聴く。
・がんは誰にでも起こる身近な病気であることについて
・がんと分かるまでの経緯やがんであることを家族に伝えるときの思い等について
・人との出会いや繋がり、病気からの贈り物（キャンサーギフト）について
・誰もが皆大切な存在であり、大切な人であるということ



富山市立水橋中学校

○　教育課程上の位置付け　　３学年　保健体育科
○　実施日　　令和４年 11 月１７日（木）
○　講　師　　富山大学附属病院　教授
○　授業内容　　「がんの予防と生活習慣」
適切な生活習慣を身に付けることががんの予防に有効であることを理解する。
・がんの主な原因について　・喫煙とがんの発症について
・ウイルスや細菌感染によるがんとその予防について　・がんの予防と生活習慣について
・がんの早期発見とがん検診の重要性について

高岡市立牧野中学校

○　教育課程上の位置付け　　２学年　総合的な学習の時間

○　実施日　　令和４年 12 月７日（水）

○　講　師　　富山県がん総合相談支援センター　ピアサポーター

○　授業内容　　「命の大切さ～乳がんを体験して～」

・がんと言われたとき（がんの告知（自分の気持ち、家族の様子）、がんの検査について）

・私のがん治療（抗がん剤治療と副作用、手術、ホルモン療法と副作用について）

・がんを体験して思うこと、今みんなに伝えたいこと（検診を受けてがんを早期発見すること、がん検診未受診の理由、がんを防ぐための１２か条について）

滑川市立滑川中学校

○　教育課程上の位置付け　　３学年　特別の教科道徳の時間

○　実施日　　令和４年 12 月９日（金）

○　講　師　　富山赤十字病院　緩和ケア認定看護師

○　授業内容　　「がんの正しい知識と共生」

・がんという病気　・日本のがんの現状　・がんの原因～予防～検診　・がんの治療～緩和ケア

・がんの相談　・がん患者さんの様々な思いや願いについて

・メッセージ（今できること、実践することの大切さ、支援の積み重ねとがん患者と共に生きる社会の基盤について）

富山県立砺波高等学校

○　教育課程上の位置付け　　１学年　保健体育（保健）

○　実施日　　令和４年 11 月１日（火）

○　講　師　　富山県がん総合支援センター　ピアサポーター

○　授業内容　がん経験者の外部講師の方から体験を踏まえた話を聴く。

・がんになるまでの生活について

・がんの体験（体調の異変、がん宣告、治療法、副作用との闘い、後遺症について）

・がんを患って思うこと（がん発覚時の思い、闘病中の心境の変化（患者、看護師との出会い）等）

・がんサバイバーとして伝えたいこと（がんについて思うこと、がんサバイバーの姿勢について等）

２．事業の達成度について

「がん教育出前授業・外部講師を活用したがん教育」の実施について

・外部講師派遣については、学校の実態、児童生徒の発達段階（小・中・高）、授業内容の希望等を考慮して外部講師をコーディネートし、学校のニーズや授業のねらいに応じた外部講師を派遣することができた。学校（授業者）のニーズに合った外部講師による出前授業実践が、がんに対する正しい理解とがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深め、自他の健康と命の大切さについての学びを深めることに繋がる効果的な事業となった。

〈検証〉生徒の事前事後アンケート結果より

・がん教育の重要性、がんについて正しく理解する意識の高まりがみられ、がんやがん患者との共生についての思いも深まった。

①「がんの学習は健康な生活を送るために重要だ」の項目で「そう思う」と回答する割合

【　実施前 79.7%　→　実施後 91.6%　】　⇒　「11.9」ポイント上昇　↗

②「がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ」の項目で「そう思う」と回答する割合

【　実施前 79.5%　→　実施後 89.5%　】　⇒　「10.0」ポイント上昇　↗

③「がんは日本人の死因の第２位である」の項目で「誤り」と回答する割合

【　実施前 51.8%　→　実施後 70.5%　】　⇒　「18.7」ポイント上昇　↗

④「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」の項目で「そう思う」と回答する割合

【　実施前 61.6%　→　実施後 73.9%　】　⇒　「12.3」ポイント上昇　↗

⑤「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」の項目で「そう思う」と回答する割合

【　実施前 61.7%　→　実施後 74.9%　】　⇒　「13.2」ポイント上昇　↗

⑥「がんと健康について、まず身近な家族から語ろうと思う」の項目で「そう思う」と回答する割合

【　実施前 48.0%　→　実施後 65.0%　】　⇒　「17.0」ポイント上昇　↗

〈検証〉生徒の感想より（今後取り組んでいきたいと思ったこと）

・自分の健康にもっと気を配り、家族にも検診を勧めたい。
・学んだことを家族と共通理解していきたい。
・もし周りにがんになった人がいたら、必ず寄り添ってあげようと思う。
・普段あまり考えないテーマだったので、日頃からもっと考えていこうと思った。

３．今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○　がん教育の充実を図るための効果的な取組

・がん教育総合支援事業評価アンケート（児童生徒、学校（教職員）、協議会に対するアンケート）結果から、がん教育出前授業において、がんを経験した方の話を聴く機会は貴重であり、効果的であるという声が多く聞かれた。今後も広く学校教育の中でがん体験者の話を聴くことができるよう、外部講師（がんピアサポーター）を積極的に活用したがん教育出前授業の実施に向け必要な予算を確保し、関係機関と連携し工夫した取組をしていく。

・学校の指導者（教職員）に対して、がんの知識や理解を図るための研修を充実させる。がん専門医等、医療者を講師とし、指導者が科学的な根拠に基づいたがんについての知識を深めることができるよう、各学校で「がん教育」を担当する教職員を対象とした研修会を実施したい。

○　啓発資料の工夫

・前年度に続き、生徒対象用のがん教育に関する指導資料リーフレットを作成した。今年度は指導用ポスターも作成した。リーフレットはデータ化し、一人一台学習端末を活用した学習に対応できるようにした。今後も啓発資料を継続的に配布し、指導に役立てることができるように改善していく。文部科学省からの教材についても一層の周知を図っていきたい。

４．モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○　養護教諭をはじめとしてがん教育の必要性についての認識は広まっているが、さらに教職員全体へのがん教育についての理解を広めることが必要である。特に「がん教育」を担当する教諭に対する研修の機会、効果的な研修の方法等を検討していく必要がある。

○　外部講師を活用する利点は理解されてきている。がん教育の普及・啓発において、出前授業の実践や先進事例の周知は非常に重要だと考えている。これまで、県内全公立学校へ紙面による事例の周知を行ったが、今後はより効果的な方法を検討していきたい。